



今にして

歌人 松田 義信



卒業の門は失業の門に通ずの現況を思うと、大学は出たけれど、あの頃の世情が蘇る。二日、三日も語りあかすほどの思い出はある。しかし、学生時代のことを話しても話す方は満足気



昭和 28 年代の学苑全景
(昭和 57 年 10 月発行「都の西北建学百年」より引用)

でも、聞いている方は迂遠のこと故、退屈なものということぐらいいは分かっている。それでも、課せられた責めは負はねばと筆をとることにした。

新学制の大学になって早稲田に学んだこともあつてか、第一高等学院が大学予科から独立した時分(大正12)に入学した当時を「私が一驚したのは年齢の差がまちまちなことで、私が誰よりも最年少者であった」と火野葦平が回顧しているように、和服の者こそいなかったが、皆着帽しているものの私の周辺の者は学生服も年齢も本当にまちまちだった。早稲田は田舎者、自由をむさぼる庶民の学ぶ処という感じがした。これが親しきをもてた最初であった。



大学は学ぶ場所、遠足の場所にあらず

感激的なことを言えば、都の西北と
きわの社に、創立70周年記念祝典当日、
正門前と会館入口に杉の葉で意匠した
超巨大アーチが建ったことであった。
卒業4年時10月のことであった。つい
この前125に湧いた数字に比すれば、
遠い昔のことのような気がする。

当時の私たちのグループは酒を飲ま
なかつた。多くは自炊し、一日二食で
たまにといわず下駄履き、雨具なしで
の通学も珍しくないほど貧しかった。
授業料は年二分割でもよかつた。かり
に飲むとしても新宿鬧市のドロクし
か出回っていながかつた。隅々聞いたと
ころでは、多くが米軍キャンプの残飯
を大釜で沸とうさせたものを啜って、
闇焼酎やメチルを湯呑で隠し飲み、取

締りを通れたいらしい。
そのうちに、夜の早慶戦が漸く復活
したこともあって、神宮球場から宵が
迫る頃をみはからって新宿へ足を運ぶ
と恩恵にあずかつた。恩恵とは、あの
学生帽をかぶってさえいれば飲み屋と
いわず、屋台といわず出入自由で、支
払不問であったことだ。多分、それな
りの酒代を都合する大物先輩？がいた
のであろう。

社会人になってあの幻の大先輩のよ
うなOBと慕われるには無縁で、非力
なまま高校教師だった過去の自分を、
計りがたい悲しい不甲斐なさで痛いほ
ど感じている。

このところ、本県高校生で稲門をく
ぐる者の激減が続く。種々の要因を愚
考しつつも、官尊民卑の絶対主義の時
代の高田早苗博士の知見の弁「早稲田
の卒業生は官界に向かうよりむしろ民
間に活路を求めよ、また東京に執着せ
ずなるべく地方の指導者になれ、そう
でないと国家的脳充血の危険を招く」
を、今に徴して宮崎稲門会も、野に在っ
て野でなし。ワセダの門は世界に通ず、
の志をもった後輩の啓発につとめたい
ものだと思っている。

そのためにも、一人は無力でもわ
が宮崎稲門会の総力、知力と胆力で、
乾坤一擲！人生の応援歌ワセダ、都の
西北を謳いたいものである。

(S28 教育国文科)

安井息軒のこと

元高岡町長 吉元 正憲



新年にあたり夢のある話題を記したい。早稲田大学の古賀勝次郎教授を講師に招き、去年九月、安井息軒顕彰会主催の講演会が（清武町文化会館）で開かれた。演題は『安井息軒と土佐の政治家たち』で、久々に素晴らしい講演に感動した。

恥ずかしながら私は寡聞にしてわが郷土の偉人である息軒を江戸時代の漢学者・儒学者くらの認識しか無かった。ただ森鷗外の短編小説『安井夫人』を読んだのが高校時代、美しい佐代夫人の印象しかない。息軒は幕末の混乱期に江戸に「三計塾」を開き、弟子の数二〇〇人以上の人材を育てている。

彼の思想は儒家思想と法家思想の統合で、学派にとらわれない自由な教育を目指した。『周礼』、『管子』が必読書で西欧の法治国家思想を教えていたと云う。

その弟子たちが明治新政府で政治家や司法関係者に大勢頭角を現し活躍していたことはあまり知られていない。

後に政治家として名をなす谷干城、陸奥宗光、井上毅、河野敏鎌、品川弥二郎等々の活躍には目を見張るものがあり綺羅星の如き顔ぶれである。

その一方わけても土佐出身の弟子は六十名を越えるが（ほとんどが龍馬の周辺にいる若者たち）さらに弟子ではないが、土佐藩重臣の吉田東洋、佐々木高行との深い交流があったと云われている。

たとえ間接的であつても息軒の思想が維新の革命児坂本龍馬に大きな影響を与えたと考えても決して不思議ではない。

一、なぜ息軒の弟子たちが近代国家建設に貢献できたのか？

二、息軒の思想が龍馬へどんな影響を与えたのか？

三、なぜ維新を迎えてわずか二十年の短期間で近代法治国家を創り上げることに成功したのか？

答えは、既に其れだけの素地が息軒たちの努力で出来ていたからだと言われる。

われ等が誇る息軒の功績は大きいと云わざるを得ない。

今一度稲門会主催で講演を聴きたいものだ。宮崎県民として安井息軒を見つめ直すときが来ていると思う。

(S 41 政経)

人物紹介

とびた ずいしゅう
飛田 穂洲 (1886 ~ 1965)

本名飛田忠順。水戸市出身、水戸中（現水戸第一高等学校）より1907年（明治40年）早稲田大学法学部に入学し野球部入部。以来武士道に通じる野球道を追及。精神野球唱導の源流であり日本学生野球の父。1943年（昭和18年）10月16日の出陣学徒壮行「早慶戦」に奔走。その模様は、映画「ラストゲーム最後の早慶戦」で俳優柄本明が熱演。主題歌は日南市南郷町出身の鬼束ちひろの「蛍」。明治神宮外苑の出陣学徒壮行会は同年10月21日に举行される。

まつだ よしのぶ
松田 義信 (1930 ~)

元県立宮崎南高校長。歌人。1930年（昭和5年）日南市大窪に生まれる。1953年（昭和28年）早稲田大学教育学部国文科卒業。歌集「あを潮の道」「天に対ふ口」「日々またひと日」エッセイ集「穂のゆらぎ」「光の道 風の旅」「素心のかたみ」

たに たてき
谷 干城 (1837 ~ 1911)

土佐国高岡郡窪川出身。江戸へ出て安井息軒の門下となる。1866年（慶應3年）江戸へでて西郷隆盛と会い薩土同盟を結ぶ。1874年（明治7年）台湾出兵。西南戦争の際、52日間熊本城を死守。学習院院長、1885年（明治18年）第一次伊藤内閣の初代商務大臣。坂本龍馬を尊敬、生涯龍馬暗殺犯を追う。新撰組局長近藤勇の斬首刑を言い渡したと言われる。

おの あすぞ
小野 梓 (1852 ~ 1886)

土佐市宿毛に生誕。1886年（明治19年）肺結核で33歳で夭折。明治4年～明治7年まで米国留学し英米法を学ぶ。帰国後5年間司法省に奉職。1882年（明治15年）大隈重信侯を補佐し東京専門学校（現早大）創立に貢献。早稲田大学建学の母と尊崇される。

たかだ さなえ
高田 早苗 (1860 ~ 1938)

東京都江東区（江戸深川）に生まれる。1882年（明治15年）東京大学文学部卒業。大隈重信侯に協力し東京専門学校設立に尽力。1887年（明治20年）より3年間読売新聞主筆。大隈重信侯が初代総長に就任とともに初代学長に就く。総長就任後、早稲田大学の職制、式服、式帽、校旗等の制定を發議。貴族院議員。第二次大隈内閣で文部大臣。

こうの とかま
河野 敏鎌 (1844 ~ 1895)

土佐藩士郷土河野通好の長男として出生。1858年（安政5年）江戸へ遊学し安井息軒の門下となる。土佐勤王党に参加し武市瑞山や坂本龍馬と活動。投獄6年、後藤象二郎の助力で江藤新平の知遇を得る。1874年（明治7年）佐賀の乱の首謀者江藤新平を処断。内務大臣、文部大臣等を歴任。

「宮崎の早慶戦」

県ラグビー協会総務委員

財津 吉長



■2012 宮崎招待ラグビー「早稲田 vs 慶應」■

期 日 平成 24 年 5 月 20 日 (日)
 試合時間 13:00 ~ 14:30
 会 場 宮崎市生目の杜運動公園 陸上競技場
 入 場 料 前売り 1,500 円 (当日 2,000 円)
 主 催 九州ラグビーフットボール協会
 主 管 宮崎県ラグビーフットボール協会
 協 力 早稲田大学校友会宮崎県支部・慶應大学宮崎三田会
 ※「スポーツランドみやざき」を推進しよう。



昨年末、寄稿依頼があった。文章が苦手な私は、正直、荷が重かったが、本県で三度目の宮崎招待ラグビー「早慶戦」を成功させるため、一生懸命、案内させていただきます。

満員の観客

平成 14 年、宮崎県ラグビーフットボール協会は、「宮崎ラグビーの継承と創造」を掲げ様々な取組を始めましたが、なかでも本県ラグビー普及の目玉として力を入れた取組が、「宮崎の早慶戦」です。

振り返ると、この一戦を実現するまでに二年間かかりましたが、早慶戦の伝統を売り物にしながらも伝統を傷付けてはいけないというプレッシャー、手探りで準備する私たちを助けていた口元周策さん、小林正幸さん、チケット販売に全力で取り組んでいた蛭原前支部長はじめ早稲田大学校友会宮崎県支部の皆さんの御恩、増田前会長はじめ協会の思い、諸々の思いやプレッシャーの中で、私たちは「宮崎の早慶戦」の成功に向けて、会議を重ね準備を進めました。

そして、第一回「宮崎の早慶戦」を、平成 17 年 6 月 12 日、宮崎県総合運動公園陸上競技場で開催しました。試合は、八千人の観客が見守る中、早稲田大学が、素早い球出しと連続攻撃で慶應大

学の必死のタックルを振り切り、55 対 17 で勝利しました。校友会の皆さんの御尽力のお陰で、スタンドは満員の観客。キックオフの笛を待つスタンドを震えるような気持ちで見上げながら、プレッシャーを乗り越え、協会が、目標を持って一体となって取り組んできた結果だと、大きな自信を得たことを思い出しています。

爽やかな感動

第二回は、安藤公一さん、朽木支部長はじめ校友会の皆さんの御支援をいただき、平成 21 年 5 月 17 日、宮崎県総合運動公園陸上競技場で開催。六千人の観客が見守る中、早稲田大学の荒ぶる魂と慶應大学の魂のタックルが激突する好ゲームとなり、最後、慶應大学



荒ぶる魂の激突！

のゴールキックが決まって 27 対 27 で終了しました。ノーサイドの笛の中、会場の拍手は鳴り止まず、爽やかな感動に包まれていました。

これまで二度の対戦を経験して、協会全体に一体感ができたこと、ラグビー普及のために頑張る若い人達が育ち、事業を企画、運営する力が向上したことは、協会の大きな財産になりました。言葉足りませんが、お世話になった方々に心からお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

初夏の風物詩として

三度目に臨む私の目標は、本県ラグビーの普及、伝統の重みを青少年に伝える、スポーツをとおして地域の活性化に貢献することです。また、協会として大切なことは、宮崎開催の意義を振り返り原点に帰ること、そして、校友会の皆さんとしっかりと連携して最高の準備、運営で観客の皆さんをお迎えし、郷土宮崎で大学ラグビー伝統の一戦を心から楽しんでいただくことだと考えています。

その先に、輝く太陽と新緑の中で開催する「宮崎の早慶戦」が、宮崎の初夏の風物詩として郷土の財産になることを夢見ています。

(元県スポーツ指導センター所長
 現財) 県体育協会事務局長)



支部長だより

●平成23年6月11日(土)

鹿児島市ロイヤルホテルに於いて九州・沖縄・山口の合同役員会開催。朽木支部長、森川幹事長の2名参加。

今後、九州ブロックの名称は「九州・沖縄・山口交流会」とする。次回開催は、福岡県支部が担当。会議後「招待早慶ラグビー」の激励会に合流して懇親を深めた。

●平成23年7月9日(土)

全国支部長会が大隈会館で開催。会議前、九州・沖縄の支部長会。佐賀県支部長より「支部長会の目的・意義を明確にしてほしい」との意見が出され、「まずは開催し支部ごとの情報等の交換する」ということで一致。11月に鹿児島県が連絡幹事を担当、福岡支部が主管で開催予定とした。

●平成23年8月16日(火)～8月20日(土)

早大柔道部(Aチーム)が延岡市旭化成で夏季遠征合宿。県支部を代表し、飯干延岡稲門会会長が食糧を差し入れた。

●平成23年10月16日(日)

「2011 稲門祭」に於いて、県支部より杉の子「みやざき春秋瓶詰めセット」を「ふるさと賞」として協賛。全国各県校友会より300本のプレゼント。

●平成23年11月19日(土)

福岡市の西鉄グランドホテルに於いて「九州・沖縄・山口交流会」開催。本県より朽木支部長、飯干商議員、延岡稲門会市園幹事長の3名参加。各県より取組の報告・課題等意見、提案が出された。今後、練り上げ「九州はひとつ」との観点から具体的な提言を行うことで一致。次年度開催は福岡。軌道に乗った時点で各県開催とする。

連載

ペンリレール *稲門女子会*

MRT宮崎放送アナウンサー

加藤 沙知



平成21年に早稲田大学を卒業。宮崎に来て、早いもので四年目の年を迎えました。今回この様な機会を頂き、学生時代に書きためたノートやアルバムを開いてみました。そこには、当時の私の想いが詰まっており、懐かしい学生時代の思い出がこみ上げてきました。

そのノートの中に、入学して初めて出席した授業でとったものがありました。その授業は、学部の学生総数約5万人というマンモス校からは考えられないような、12人の学生と教授の少人数制の授業でした。
(私が入学した平成15年頃は、4人の生徒と外国人講師の英会話授業が必修科目として設けられるなど、少人数授業が多く設けられるようになった時期でした。)

初めて出席した授業の中で教授の一言が、今でも私の中に残っています。
『今まで(高校生活で)あなたたちが行ってきたのは、勉強です。教材が

あつて、先生がいて、教えてくれている……。これから皆さんがしなければならぬのは、学習です。何事にも興味を持ち、疑問を抱き、それを自分で調べ、解決していく。時に躓くこともあると思います。そんな時の為に、私たち教授がいます。どんどん学習してください。』

入学当初は、まだ教授の意図がつかめていなかったが、学年が上がるにつれ、また社会人として仕事をするようになるにつれて、この言葉の本当の意味が分かるようになってきました。

現在、宮崎でアナウンサーとして仕事をしていく中でも、強く感じています。

仕事で様々な場所へ伺い、沢山の方にお会いします。出身地ではない宮崎という土地で、不思議に感じることもあります。宮崎県人四年目の私にとって、まさに「学習」の日々、宮崎の先輩方は、「宮崎の教授」です。

日々精進。先輩方に早稲田のこと、宮崎の事について教えて頂きたいという思いを託して、私の「ペンリレール」とさせて頂きます。
(今回は宮崎銀行本店の日高優子さんへバトンを渡します。)

(H21政経)



冬虫夏草酒 金霧島

すっきりと、ふくよかな味わい。

古来より健康に役立つと珍重されてきた「冬虫夏草」と、美味しさを極めた本格焼酎「黒霧島」の幸せな出会いから誕生した「金霧島」。よりマイルドな口当たりと「冬虫夏草」由来の深いコクが、お楽しみいただけます。美味しく飲んで、すこやかに。



冬虫夏草

霧島酒造株式会社

霧島通販蔵

www.kirishima-product.com

通話料無料 ☎ 0800-123-1574

受付時間10:00~17:00
(土・日・祝日を除く)

◎お酒は20歳になってから。◎飲酒運転は法律で禁じられています。

「利他の心」

神崎建設工業株 代表取締役

神崎 義世



暦の上では春とはいえ、春まだ浅く、風に冷たさを感じられる今日この頃、皆様におかれましては如何お過ごしでしょうか。

さて、本年も世界経済、日本経済共に厳しい状況が続いており、元々脆弱な宮崎経済におきましても、今後も厳しい状況が続く事が現実の様です。

この様な状況の中で、私の会社は、お陰様で今年度の3月期決算では、過去最高の43億円の売り上げを上げる見込みで御座います。この様な経済状況の中で、私の会社が何故この様な業績を上げる事が出来ているのかここで紹介したいと思えます。

近年の経済状況

近年の経済情勢では、銀行に預金しても利率は低く、株は下落を続け、リーマンショック以降は金融商品にも簡単に手が出せないという様にお金を持っている方の行き場がなくなり、また、日本経済の縮小により大手FC(物販、飲食、コンビニ等)のテナント出店が減少し、土地を持つている方も同様に行き場がないという様に資産をお持ちの方々の資産活用手段が少なくなっ

ているのが現状です。

当社は賃貸マンションを企画・設計・施工・その後の入居管理まで行う中で、過去13年間の平均入居率98%を維持し、賃貸マンション経営を安定させる事で、現実によりターンのある資産有効活用の担い手と評価される様になりました。正に時代の流れに乗ったと云いますか、当社に風が吹いている様に思います。例えば、最近市役所を定年退職した女性が退職金を有効活用したいとの考えから退職金の二千五百万円で土地を購入し、当社で一億三千万円の賃貸マンションを建設して頂き、月額四十二万の収入を得たという方、また、大通り沿いの空き店舗に良いテナントが来ない事を理由に賃貸マンションを建て替えるという例もあります。

業績向上の要因

以上の様に当社に風が吹く要因は何故だろうと考えました。それは、私が経営の根幹に利他主義の考えを据えているからだと思えます。利他主義とは、他を利した分だけいざれ自分に返って来るといふ考え方であり、当社が利他主義を具体的に紹介しますと、

- ① 入居者に低家賃で快適なマンションを提供する。
 - ② マンションオーナーに98%の入居率で安定経営を提供する。
 - ③ 自ら建設需要を起こし地域社会の活性化に貢献する。
- の三点であります。つまり商売の鉄則である売り手よし・買い手よし・世間良しの三方よしを実践しております。

当社は売り上げを上げよう・利益を上げようではなく、社員にこの三つの事を本当に一生懸命にやろうと徹底し、多少成功しているからその結果、売り上げが上がり、利益が上がっているのだと思っております。

自社製品を磨く

起業して二十二年間この利他の心で経営を進めて来ましたが、本当に他を利した分だけ返ってきて現在の当社があると実感しております。言い換えれば、自社の製品を世の為、人の為になる様に磨き上げる事が、最も重要な経営課題であり、現在この当たり前の事を忘れている経営者が多い様に思われます。皆様の会社経営に何等かの参考になればと思つ次第であります。

この利他の心で世の中を見ても、世の中の色々な不都合な事は全て利己・我欲より起こっている様な気が致します。例えば、日本の政治家・官僚・組織・団体は自己の保身・利益の為に動き、世界の国々においても自国の利益の為に動き、結果いたる所で紛争が起きております。また環境問題におきましても、各国・各企業・各個人の利益のために行動した結果が今の地球温暖化に繋がっていると思えます。以上の事を全て利他の心に変える事が出来れば、どんなに素晴らしい世の中になるのか、私達人間に与えられた命題だと思えます。今後、困難な状況があると思えば、それを救うのは利他の心だと、ふと思つた次第であります。

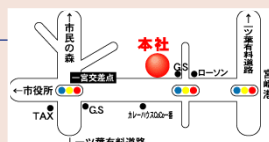
(S 39 政経)

神崎建設工業(株)概要

会社所在地 本社 宮崎県宮崎市稗原町 63 番地 1 (TEL 0985-25-1233)
 延岡営業所 宮崎県延岡市出北 6 丁目 3185 番 3 (TEL 0982-33-0858)
 日南営業所 宮崎県日南市吾田西 1 丁目 6 番 45 ユーミー由地 II 105 号 (TEL 0987-55-0019)

設立 平成 2 年 1 月 29 日
 事業種目 ① 建築・施工及び設計監理。
 ② 土地建物の売買・交換・賃貸。
 ③ 売買等の代理・仲介、その他付帯関連業務。

役員・従業員 70 人
 有資格者 従業員半数は、一級建築士、一級施工管理技士、宅建主任等の有資格者
 社是 『誠実・創意・執念』
 経営理念 仕事を通じて社会貢献し、地域の発展に寄与できる建設会社を目指す。



キャンパスレポート

No.2

連載

政治経済学部四年

田代 くるみ



“絆は見上げるものではなく、つくるもの”

こんにちは！キャンパスレポート、第二弾をお送り致します、現早稲田大学政治経済学部四年の田代くるみです。宮崎稲門会では広報を担当させていただきます。よろしくお願いいたします。

さて、今回私からは二〇一〇年に発足させました「学生による口蹄疫撲滅応援プロジェクト」のお話しをさせていただきます。二〇一〇年、四月、宮崎で発生した

口蹄疫、皆さんも記憶に新しいのではないのでしょうか。当時の様子を思い返すと今でもとても心が痛くなります。次から次に増えていく殺処分の数。毎日のように更新される農家の方々の悲痛なブログ。そして何より歯がゆかったのが、遠く離れた東京から故郷・宮

崎のために何もすることができない、自分自身でした。

しかし、もどかしさを感じていたのは同じ境遇であった稲門会の仲間達も同じだったのです。そこで立ち上がったのが「学生による口蹄疫撲滅応援プロジェクト」でした。

発足した六月、手探り状態の中取りかかったのが、大学界隈の商店街や飲食店に手作りの募金箱を置いてもらうこと。翌月にはご賛同頂いた店舗に設置を開始しましたが、ここでプロジェクトに大きな変化が。稲門会の活動を知った都内の他大学生から参加要請があったのです。活動は東京大、慶應大など十以上の大学に拡大していきま

た。最終的にご協力いただいた店舗数は百三十を越え、更に同月には新宿駅南口での街頭募金も実施。八月には県福祉保健部へ中間報告のため県庁へ来訪。翌月には日本橋高島屋本店で開催された宮崎物産店にて、特設パネルを展示し、活動報告もさせていただきました。

そして二〇一〇年十二月。私たちは同プロジェクトを終え、集められたすべての義援金を県へと責任もって送金しました。集まった義援金、総額八十九万八千八百八十四円。約九十万円という当初全く想定していなかった金額に、驚きと感謝の気持ちでいっぱい

なったのを今でも覚えています。

プロジェクトを通してかけがえのない仲間に出会えたこと、多くの温かい気持ちに触れたこと、そして故郷のためにこんなに一生懸命になれたことは私の大学生活での誇りです。

口蹄疫発生から約二年。昨年は東日本大震災にも見舞われ、日本は苦難の年が続いています。しかし私はプロジェクトを運営して多くの人から感じた、あの時の人と人が助け合う気持ち、故郷を思う気持ちがきつと日本の地域を救う原動力だと信じています。これからもずっと、がんばろう宮崎！日本！

東京六大学第51回ゴルフ大会のご案内

日時 平成24年4月8日(日) 8:30 集合
場所 宮崎カントリークラブ青島コース
参加料 3,000円
参加人員 各校15名(アウトイン各10組)

【問合せ・申込み先】
ゴルフ幹事 福井俊郎(MRT放送)
携帯 090-7440-2971 FAX 0985-27-8858
E-mail fukui@mrt.jp



土地の有効活用をお考えのあなたに
高い入居率を誇る



しあわせ賃貸ネットワーク
Y&M ユーホームマンション をご提案いたします。

地域社会に貢献する企画提案型企業【ISO9001・ISO14001】認証取得

神崎建設工業(株)

代表取締役社長 神崎 義世 (昭和39年 政経卒)

■本社 〒880-0832 宮崎市稗原町63番地1 TEL(0985)25-1233(代) FAX(0985)25-1240
URL <http://www.kanzaki.net> mail info@kanzaki.net
■延岡営業所 TEL(0982)33-0858 FAX(0982)33-0877
■日南営業所 TEL(0987)55-0019 FAX(0987)55-0020 ■関連会社 (株)カンエイ(不動産・賃貸管理)



私の夢である青年部創設

著述業 尾崎 哲夫



永住のつもり

私は大阪に生まれ、18歳までそこで過ごし、早稲田大学入学と同時に東京に行きました。その後20年ほど横浜で暮らし、関西に戻った後、オーストラリアやアメリカを巡りました。その後、田舎暮らしに憧れ、宮崎に落ち着き、永住のつもりです。

この間、宮崎の稲門会活動に参加しました。宮崎稲門会のおかげで、多くの友人ができ、どれほどプラスになったか計り知れません。また、宮崎県人の温かな人間性のおかげで、当地で快適に過ごしております。この場を借りて改めて御礼申し上げます。

次の世代に期待

私は、横浜、兵庫、海外などで稲門会活動をしてきました。その中で、横浜においては青年部を作りました。その経験も生かし、なんとか宮崎稲門会においても青年部を創設したいと熱望しております。我が国において、あらゆる組織が高齢化していますが、早稲田の校友会も例外ではありません。若

い現役世代はどうしても忙しく、校友会活動は現役引退者をはじめとする年配者に頼る傾向があります。意識的に若い人を集め、次の世代にバトンを渡していく活動に留意しないと、たちまち組織が高齢化してしまいます。意識的、組織的な若い世代発掘が必要となります。そのために最も有効な手立ては青年部の創設ではないでしょうか。

青年部創設のプロセス

それではどのようにして青年部を創設したらよいでしょうか？最初は、稲門会メンバー2、3人が顧問的に40歳以下の交友に呼びかけ、核となる数人のメンバーを集めることから始まると思います。最初のこの核メンバーを作ることがポイントだと思います。男女それぞれ2、3名以上集うことが理想的ですが、皆様の周りからそのような交友に呼びかけていただきたいと考えます。年齢制限は、40歳以下が良いと思われま



(左上より 黒木陽平 名郷根宗 外山亮 串間栄次郎
左下より 西美聡 山岸里紗子)

それぞれの青年部メンバーが

第一、自分がどのような活動(職業)をしているか

第二、自分の住んでいる宮崎をどうしていきたいか

第三、わが国の一地方として地方が持つ問題を抱えている宮崎の問題

点とその解決法をどう考えるか

第四、早稲田大学と校友会の発展についてどうしたらいいか

以上のような論点を中心に熱く語りあう会を1年間に数回例会として活動していけばいいと思います。

具体的には、偶数月の第三金曜あたり(横浜の青年部は毎月、第三金曜日に例会をしたので三金会と称していました)、7時から9時まで、早稲田大学校友会青年部会として飲み会を続け、時にはテニス、ボーリング、ゴルフなどの活動を交えていけば長続きする青年部になるのではないのでしょうか。

私の今年の夢の一つとして宮崎稲門会に青年部をぜひとも創設したいものです。

1976年(昭和51年)早稲田大学法学部卒業、2000年(平成12年)早稲田大学大学院アジア太平洋研究科国際関係専攻修了。
元関西外国語大学短期大学部および近畿大学教授 現在著述業(ホームページ: www.ozaki.to)
主な著書:
「ビジネスマンの基礎英語」
「私の英単語帳を公開します」
「はじめての民法総則」等多数。

大西医院 (内科)

医師 大西 雄二

〒880-0002 宮崎市中央通2番5号
TEL 0985-22-3069 FAX 0985-31-8450
メール :oyuuji22@cello.ocn.ne.jp



株式会社 飯干商事

電器営業部・エネルギー営業部・レジャー営業部

取締役会長 飯干 喬 啓
代表取締役社長 飯干 耕 成

本社	延岡市御本町1番30号	TEL.0982-32-5411
延岡営業所	延岡市別府町3572番地	TEL.0982-32-6338
広瀬営業所	宮崎市佐土原町下田島	TEL.0985-73-2626
高千穂営業所	西臼杵郡高千穂町三田井	TEL.0982-72-2209
アローズパタイングセンター	延岡市浜砂2丁目21-5	TEL.0982-20-0115



(左上より 門川英俊 河野政志 平田俊近 山下亮介 芦原豊治
中央 黒木康一 村山育志
左下より 宮里仁 長濱美津哉 川崎辰巳 萩原重憲 若山浩章)

教職稲門会

県立宮崎西高校進路担当
村山 育志

平成 23 年 12 月 3 日 (土) 教職稲門会の忘年会を開きました。13 名の仲間が集まり、川崎辰巳会長より会況についての報告があり、お互いの情報交換を行った。村山事務局長より会費納入についての協力、呼びかけがなされたあと、懇談の盃となった。自己紹介、進学の現状等報告があり、「いざ声そらえて空もとどろに」と校歌を歌ってしめくくった。

県庁稲門会

宗像 幹祐

宮崎県庁稲門会は、東京事務所長の梅原会長のもと、平成 23 年度は 2 名の新規会員を迎えて現在 47 名 (男性 44 名・女性 3 名) の会員で組織しています。

年 1 ~ 2 回程度の懇親会を開くなど、仕事と役職の枠を超えた、良きコミュニケーションの場となっており、毎回、校歌の (大) 合唱で締めております♪

これからも、ますます元気に活動していきます。



昨年度、退職者の送別会の様子



本店営業部 稲門会メンバー (左より 林田洋佳 日高優子 山脇誠)

宮銀稲門会

本店営業部 日高 優子

宮銀稲門会では、昨年 10 月 15 日に 3 名の先輩方の送別会を杉の子にて開催いたしました。去られる先輩方から現役世代に、最後に贈られた言葉が感慨深く、改めて「宮銀で頑張ろう」という思いを抱きました。今後も早稲田のつながりと「語り」の場を大切にしていけたらと思います。

宮崎市地区稲門会

宮崎市地区幹事長
村社 昭二

宮崎市地区稲門会では、昨年 12 月 6 日 (火) に忘年会、年明けの 1 月 10 日 (火) に恵比寿神社への商売繁盛祈願を兼ねてぶらり新年会が杉の子にて開催されました。

忘年会では 36 名の出席で若い校友の参加も多く青年部?の誕生も芽生えつつ、新年会では参加が 21 名でしたのでゆっくりと会話をすることができました。また今回は異常?に先輩方の説話がおもしろく、神崎先輩の「自分の商品を磨く話」や三原先輩の経験談など大好評でした。



平成 23 年 12 月 6 日 忘年会の様子



平成 24 年 1 月 10 日 恵比寿祭参拝。
(左より鈴木利一・村社昭二・林英男)

レディス稲門会

前田 省子

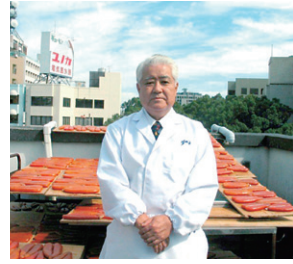
昨年は 1 月、9 月と 2 回懇親会を行いました。今年は 1 回でも多く、またより多くの会員と交流が持てるよう、楽しい会を企画したい。さすが稲門女性、お酒の強い方が多いのです。もちろんお酒の飲めない方も大歓迎。美味しい料理を食べながら大いに盛り上がりましょう。若く知性あふれる女性達との語らいで私も沢山の元気をもらっています。次回は 2 月、杉の子を予定。ぜひ御参加を。

※前回第 2 号、P 5 の県庁稲門会写真の校友福留尚仁とあるのは校友上田浩司の間違いでした。訂正します。

連載

「噂の仕掛け人になれ」
〜食の宝庫みやざき〜

森 松平



ガラスミ作成中の師匠

食材の宝庫

身土不二、土産土法が料理人としての私の信条である。「地産地消」が唱えられて久しい。欲望をいましめ、四里四方にある身近な食材で食事することにより健康を維持できるという意味で同義語といえる。宮崎は海・山・川、肥沃な大地と自然環境、温暖な気候に恵まれ、豊かな食材の宝庫だ。

ところで、県民が宮崎の旬の食材を大いに利用しているかと言えば、辛口ながらノーと言いたい。「絆とは無縁な人ほど乱用し」とは知人の川柳だが、「地産地消」も掛声ばかりで、みやざきの旬の野菜や魚介類は泣いているのが実情なのだ。美味しい旬の食材はまず地元で消費し、残ったものを県外に出荷する。「宮崎の人達は一年中なにやら美味しいものを食べているら

しい」という噂話を流し、味の宮崎を全国に発信したい。

※

今、宮崎は観光の視点から「陸の孤島化」の状況だ。今はなき、宮崎観光の父「岩切章太郎翁」（昭和61年7月16日没）は「寝たきりになって残念だよ、花の宮崎、にのいの宮崎は作った。あと、味の宮崎を作らなければね、こんなになってもまだ夢を見続けているよ」（昭和60年宮崎日日新聞元旦紙面）。

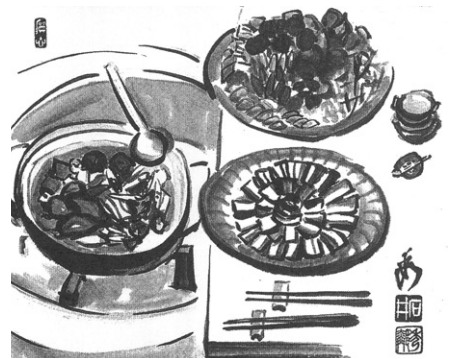
噂が噂を呼び、味の宮崎が事実と認められれば、県外、外国人観光客の増大、県民による市町村間交流も盛んとなり、経済効果は顕著となろう。食べ物が旨いと人が動く、人が動けばお金も動くという次第。

四季多彩の

「冬の美味は高原の自然薯、生目の黒皮かぼちゃ、諸塚の猪肉、冬茹しいたけ、延岡の寒ブリ、高鍋のカキ、米良の鯉。」

早春から春にかけて、山菜いろいろ、国富の千切り大根、孟宗竹、小参竹、大名竹、日向野、日向夏、高岡文旦、そして初鯉。

初夏から夏は日向の平兵衛酢みかん、門川の金鱧、都農の鮓、旭ガニに、ゴーヤー、へちま、スイートコーンなどの夏野菜、お盆前に食べられる新米。



秋の栗、柿、地どれの天然鮎、日南、北浦の伊勢海老、そして一年中味わえる地鶏、豚肉、宮崎牛。「宮崎の鶏は皮まで旨い」とは味にうるさい関西人の評判だ。

※

「大晦日から正月にかけて鮮度抜群の刺身を味わい、マンゴー、完熟金柑、柑橘類に恵まれ、お盆には新米を食し、九月一日伊勢海老漁解禁で、この時とばかりにお手頃価格ゆえ、どの家庭でも伊勢海老料理を食べている。釣り好きからは魚をもらい、山村に住む友人、知人からは鹿肉、猪肉が届けられる。十一月猪猟解禁ともなると猪鍋が定番となる。さあ皆さん、噂の仕掛け人となって宮崎を活性化させましょう。美味しい食べ物が一番ですよ。」

(S 56 一文推薦)

「食と観光」森松平氏 早大特別講演決定

講演日時 平成24年5月17日(木) 16:30~18:00

教室名 早稲田大学商学部 11号館 (505教室)

【参加有志を募集】 *参加有志へは後日詳細を通知します。

内容 [5月17日]
宮崎空港集合 12:10
学生との交流会 19:00~
[5月18日]
東京周遊(はとバス) 9:00~
羽田空港集合 17:30

募集方法 【携帯へ電話】 090-1365-5886 (Mr. ヒデまで)
【メールの場合】 eva-hide1125@miyazaki-catv.ne.jp

募集〆切 平成24年4月10日(火) 必着

創業65周年。
感謝価格にて「住宅の省エネ塗装」をうけたまわります。



国土交通大臣許可 特定建設業 一般社団法人日本塗装工業会会員

本社/宮崎市大字跡江386-4 TEL0985-47-3585 メール受付
福岡支店/福岡市博多区浦田2丁目1-4 TEL092-503-9881 info@kuchiki.co.jp

くちき 検索

校友からの一言

「古典は楽しい」

宮大教授・附属中学校
山田 利博



宮崎に来て16年が経ちました。肩書きはそれなりにになりましたが、さっぱり実感がありません。専門はこの冬新たな映画が作られた「源氏物語」で、お陰様で仕事に困ることはありません。教職に就かれている方は御存知のように、今度の学習指導要領で、小学校から古典をやらねばならなくなりましたから、嬉しい反面、「小学校の先生は大変だろうな」とつくづく思います。でも古典は本当は楽しいものですから、もっと皆さんが好きになってくれると嬉しいです。詳しくは拙著『アニメに息づく日本古典』（新典社新書）でどうぞ（宣伝・笑）

新宿に「こんね」

（社）宮崎物産振興センター
東京支部長 高林 克彦



皆さんこんにちは。昨年宮崎稲門会に復帰した高林です。私は、宮崎出身ではないのですが、以前勤務していたビール会社の宮崎支店長として6年間勤務していました。そして稲門会の皆さんに出会えたことで、とても楽しく充実した日々を送ることが出来たのです。正にここが私の故郷です。今回、縁あって宮崎のお手伝いをする事になりました。



校友 新名 省三氏提供 薩摩の山々

ました。少しでも宮崎への恩返しが出来ればと思っております。それから、東京へお越しの折は、是非「こんね」にお立ち寄りください。お待ちしております。

「三名釜」

製陶業 松形 三枝子



昨年十一月「第四回早陶会展」を小野梓記念館で開催しました。これは早稲田大学美術研究会陶芸グループのOB展です。早稲田大学は美大ではありませんが、意外に多くの美術家を輩出しています。著名な陶芸家もおります。早陶会からも、陶芸の国際展であった益子陶芸展の受賞者が四人も出ています。活動場所であった第一学生会館はなくなりしましたが、場所を移して今も学生達の活動は続いています。私も五年前に夫の実家がある宮崎に移住し、夫と共に「三名釜」を築きました。工芸に興味をお持ちの方

は、ぜひ一度三名釜にお遊び下さい。

「在野精神」

大村ふとん店会長
大村 嘉一郎



早稲田精神の一つに在野精神があります。大隅重信侯が下野中に東京専門学校を設立したところに依るものと思われまます。私も現在、下野していますが、宮崎市議在任中は、大学の設立や博覧会開催、宮崎駅周辺の整備、一市四町の合併、ホスピスの普及等、多くの大きな業績を成し遂げる事ができました。これも早稲田で学んだ経験のお陰と、感謝しております。「在野においてこそ」と、いう言葉にふさわしい仕事と再起を目指して、日々、努力を重ねているところです。

「ワケありね。没法儿！」

旅行家 新名 省三



昨秋、雲南省の香格里拉からバスで3日間の旅に出た。目的地は西藏の拉薩。運賃660元。窓際2階の席に、やつとこさを納めた。遠距離寝台バスだ。出発して12時間後チベット自治区の塩井鎮という村に着いた。公安が乗り込み全員の身分証明書をチェック、そして小生のパスポートをチェック。不法入境で強制退去。その晩は強風と野犬の遠吠えに怯えながら、お粗末な小屋で過ごした。運転手曰く、ワケありね。没法儿。それでも300元返してくれた。那時、多謝了！！

※香格里拉：ベトナム・ラオス・ミャンマーと隣接
※一元：12・15円（1月24日現在）660元は8千円程度
※没法儿：仕方がないの意。
※那時、多謝了：どうもありがたう。

「命名」

永山 倫太郎



ホテル神田橋に西原春夫総長を招き、応援歌を指揮した勢いに乗り、杉の子では盛夏に生まれ来る長男の名付けを相成り、銀鏡の七福神の様な碩学は、「重義」と墨書され、先輩諸氏大いに囃し煽るばかりなり。されど、高岡に生息する伯父の名前と同じにて、やむなく却下せり。

そもそも県支部は、大宮同窓会派蟠踞し、在学中より郷土興行で集い、散じることなく熊太郎から菊池、平嶋へと親分連なる。大古殿はうなり、麓候補の運動員まで深水氏とパシる様、現役以上に五月蠅し。

我がDNAは、四子を都の西北に列するあたわず、孫の三子に後継を託す初老の認知症なり。因みに倅裕人も見事元気なパシリか。

「同窓会」

弁護士 野崎 義弘



久しぶりに稲門会の新年会に参加した。

駅伝、ラグビー、政治等々、在学生や出身者の活躍が話題になった。自分の大学時代を思い出した。

大学、高校、中学と同窓会に行くが、それぞれ違った意味でおもしろい。大学は正に大人になる時、青春時代であり、熱く語った頃を懐かしむ。高校時代は多感な年齢を共に過ごした思い出。中学時代は異性を気にし始めた頃の話に花が咲き、皆楽しそうに相づちをうつ。中には50年以上も前のことなのに、先生の言葉や友人の言葉をよく覚えている友があり、まるで昨日のことのように話すその記憶力には感心してしまう。

同窓会を楽しみむ歳になったのだなあと思うこの頃である。

「最高地点で逝ってしまった人」

大西医院院長 大西 雄二



難波康子さんは一九九六年

五月十日、日本人女性として二人目のエベレスト登頂に成功され、七大陸最高峰登頂者となった。しかし翌日、八千メートルに設営された最終キャンプから四〇〇メートルというあと一步の地点で遭難し、帰らぬ人となった。

その人が早稲田大学のキャンパスで同じ時期を過ごした旧姓Tさんだと知ったのは、「早稲田学報」の追悼記事に載っていた写真であった。

彼女とは何回か言葉をおかわしている。華奢な方であった。キャンパスでみかけた光景を、昔の映画のヒトコマのように思い出す。卒業後、海外のトレッキングから、より高い山を目指されるようになった。

七つの大陸の最高峰のうち、六つまで登った。その先にはただひとつしかない。エ

ベレストである。

この遭難を描いた『空へエベレストの悲劇はなぜ起きたか』に登山隊の写真が載っており、難波康子さんが写っている。当時四十七歳、女性としては最高齢のエベレスト登頂者であった。高名な登山家になられるとは夢にも思わなかった。

青春の時期にほんの少しだけ巡り会った人である。私に大事な人生のエピソードを与えてくれた人は、地球の最高地点で逝ってしまった。

「卒業して思うこと」

宮崎銀行 西 美聡



大学を卒業して2年。東京を離れた今もお、後輩達から演奏会の案内状が届きます。遠く離れていても便りが届くことを嬉しく思います。

また、昨年12月には宮崎市地区稲門会忘年会に参加させていただきました。多くの方と出会いました。宮崎と大学という2つの共通点だけで、こんな

にも話に花が咲くのかと思うほど楽しい一時を過ごすことができました。

縁あって巡りあったこの出会い、そしてつながりをこれからも大切にしていきたいです。

「飛田穂洲先生の」

県立大宮高校野球部監督

大富 省三

戦前、学徒出陣の前に、中止されていた早慶戦の開催を懇願する選手たちに向かって、当時の野球部監督、飛田穂洲先生が『練習は試合のためだけにするのではない。』と一喝する映画の場面があります。私は学生の頃、その言葉がよく理解できませんでした。最近、大学入試のためだけに授業を受けているような生徒を見ると、少しその意味が分かるようになりました。30年以上前、訳も分からずに、安部球場で叫んでいた部訓の中の『練習常善』という言葉の深さに、50歳をすぎてもやっと辿りつけたような気がしています。感謝。

「ふたたびの！ 会費納入のお願い」

平成23年度の宮崎県支部校友会費二千円の納入を同封の払込用紙にて最寄りの郵便局で払い込みをお願いします。*すでに納入済の方は必要ありません

平成24年度 早稲田大学校友会宮崎県支部総会

と き 平成24年7月22日(日)

ないよう 地区別商議員懇談会 12:00～13:40
 県支部総会 14:00～14:50
 講演 15:00～17:00
 交流会 17:20～19:30

会費	校友 6,000円	一般 5,000円
----	-----------	-----------

ところ ホテルメリージュ延岡
 延岡市紺屋町1-4-28 電話 0982-32-6106
 【問合せ先】090-1362-7330 (延岡支部幹事長 市園)

* 花見のご案内と参加者募集 *

もくてき 春を愛で自然の萌芽を楽しむ
 と き 平成24年4月1日(日)
 ところ 宮崎市高岡町「天城公園」
 行きと帰り ジャンボタクシーによる送迎
 集合場所 季節料理「杉の子」前
 出発～帰りの時間 9:30 出発～帰り 15:00
 会費 昼食弁当及び飲み物代 2,000円
 弁当は「杉の子」特製。
 タクシー代は参加者割り勘です。
 ※平和タクシー 往復5,000円
 参加者募集 平成24年3月23日(金) 必着
 5名以上で成立、ご家族参加歓迎。
 募集方法 携帯へ電話「参加します。誰れ誰です。」
 090-1365-5886 (Mr. ヒデ)
 メール: eva-hide1125@miyazaki-catv.ne.jp

Coffee Break 

日々光が増して温かくなり、風に揺られて山桜の枝々の蕾が今か今かと開花のさきがけを待っている。

春季号として第3号を発行することができた。巻頭の松田義信先生の「今にして」の原稿をいただいたとき、同時にページをめくったのは、先生が昨年3月に鉦脈社から発行された「日々またひと日」である。人は、容赦のない時間の流れの中で、生まれて私権を享有し、いずれ没する。

「多くの時間を意のままにし、わがままにすごす日々は取立てていうものもなく、社会に何かをもって迫る片鱗すら見えぬほど、無惨なものであるかもしれない。でも、歌は生活の外にはない。その内面にある。」という先生の言葉は、震災支援にも行けぬ今の身には痛いほど親和的である。その透徹し感性を結晶させたような言葉に接すると、春の息吹を素直に受けとめることができる。

吉元先輩の「安井息軒のこと」を読んだあと、改めて森鷗外の「安井夫人」を読み直した。鷗外は淡々とした文章を書きながら「美しい肌」に粗服をまもって、質素な仲平に仕えつつ一生を終わった。佐代さんのことを抑えた気持ちで自分の妻としたい願望を表明したかったのかもしれない。五十一歳で世を去った佐代さんは、二男四女を授かったが、長女須磨子を除いて五人とも夭折し不運な思いをしたものと想像される。当時の生活や医学の水準は、長寿を許さぬものであったのだろう。鼓腹撃壤の今の世の中、映画を志す人には、江戸末期の質素儉約に生きる仲平と佐代の生き様を映画化してほしいものである。

早慶ラグビーの招待試合が5月20日に開催される。思い出すのは、平成17年6月12日の第一回のラグビー戦である。前日、蛸原前支部長、森川幹事長、村社幹事、



平成17年6月11日 第一回「ラグビー早慶戦前夜祭」

道休校友等と宮崎空港のロビーでエールの声を叫んで出迎えた。

私の部屋には、清宮克幸監督から戴いた「荒ぶる魂」の色紙を掲示している。県運動公園で校歌を歌った感激を再び味わいたいと思う。

さて、今回は「利他の心」というタイトルで商議員の神崎義世先輩にも一筆お願いした。「自社の製品を世の為、人の為になるよう磨き上げる事」が業績向上の要因であるとする経営哲学には首肯いた。俺が、俺が、で生きてきた自分の至らなさを反省する次第である。

秘境雲南省を旅された新名省三校友の「ワケありね、没法儿」は、チベットの現実が伝わる文章である。いずれ旅行記を寄稿していただこう。松形三枝子校友の「三名窯」にも見学にいきたいものである。

校友には、多才多様な人たちがいるものだと感心する。広報「杜へ」の紙面でそれぞれの想いや生きざまを紹介できればと思う。(F)